

した安全研修などに39001の取り組みをリンクさせることで、現場から危険箇所などを指摘する意見が上がるようになった。ポト

目標上げてマンネリ解消

黒姫(渡辺明彦社長、東京都足立区)は6月、グループの広域環境開発(同、千葉県袖ヶ浦市)を含む全

ての事業所で認証を取得した。7月、交通安全にとどま

た。渡辺社長は「近年、安全への社会的責任が増大して

おり、一層の交通安全を實現するために取得した。高いハードルを設定し、マン

ネリ化を解消する狙いもある」と説明する。1月にキ

ックオフ。中間管理職を中心に短期集中のミーティングを繰り返して、意識共有を図った。

安全管理責任者の加藤淳マネジャーは「PDCAを回す過程で出てくる改善点にその都度対応し、最終的

社が過労運転や過積載運行などに注意を払っている証だ。だから、苦しい環境でも安心して働ける」と話してくれた。自分たちの職場

ターになるため、ポトムアップで企業体のレベル向上を図っていく。

渡辺物流(渡辺健社長、栃木県真岡市)では、03年に9001、14001、

OHSAS18001を一括で取得した。渡辺社長は「(39001で)一番魅力を感じたの

は、運送事業に最もマッチした規格ということ。9001はメーカー偏重で不満が多かった。OHSASと

違うのはドライバーも被害者も含めた事故防止を把握する点」と話す。

9001などへの取り組みは、みで基盤整備されてはいたものの、予想以上にスムーズだった。「PDCAが社

内に定着し、レベルアップしていると感じた」と振り返る。

特に変化したのは事故防止体制だ。ドライバーにヒヤリ・ハット事例の提出を義務付け、毎月の安全会議で検討材料にする。

「目的はドライバーの危険に対する感受性を高めること。取得して終わりではない」

また、マンパワーには限界があるため、車両に追突防止ブレーキを装着。車両

ボディに貼った会社ロゴマークは夜間の事故防止のため蛍光塗料化した。メー

カーごとに異なる消化器の設置場所も社内統一。今後は「人と機械の両方で安全を追求していく」と渡辺

氏は話している。

特集

秋の全国交通安全運動



燃 轟